

# 文化

▼ある日のバスで  
先々回(2093回、2月7日付)は大英博物館での展覧会に触れたので、もう少し英国の続きを書いてみよう。  
俳優の小沢昭一が、ロンドンのコバントガーデンの大道芸について、語っている。「だいたい昔からあるような古い芸。……まあ、踊りを踊るとか、パントマイムをするとか、あるいは曲芸ですね。何本も棒を投げるとか、球(まり)を放るとか、あるいは逆立ちをしたり、ひっくり返るとか、一輪車に乗って走るとか……いろんなことをやる。……口からフオーツと火を噴(ふ)いたりしますね」「(ものがたり 芸能と社会)」  
小沢の話は、こんなところから遊(あそ)びと芸能、さらには芸能の起源というほうへ向かう。筆者(西村)が実際、英国でいわゆる「大道芸」を目にしたのは、何度か旅したイングランド南西部の地方都市、バースの街であった。

## 温泉の町

バースには、重い皮膚病にかかったフリンの王子が、同じ病を持つ豚が湯に浸かると癒(い)や(よ)う(な)るとして(る)の(に)倣(な)ら(な)う(と)して先治した、という神話のような前史がある。それは、わが国の鸕(う)す(ぎ)の湯(な)を(はじめ)とする、動物が関わる多くの温泉発見伝説にも通じる話ではある。柳田国男

## なら 民俗通信 295 西村 博美

は、『山鳥民謡集』に「鷺の湯、鹿の湯、猪(むじな)の湯など、動物の名を用いしものみ多きは、異国の旅人等には定めて奇妙に感ぜらるることなるべし」と書いている。  
「異国の旅人」ならぬローマ人によつて、フリン島(イギリス)が占領されたのは、紀元一世紀とされる。そ

## 英国バースの辻音楽師



英国バースの辻音楽師 (2010年3月11日、筆者撮影)

## 奇妙な機器がギコギコ

して何よりこの小さな街バースには、ローマ人をうしろとりとして放さない温泉が湧いた。「彼らはここに『スルの泉』(Aguas Sulis)という美しい名前をつけた。スルというのはケルト人に崇拜されていた温泉の名前で、ローマ人は治癒の女神ミネルヴァと、このスルの女神とを結びつけた神殿を建て、温泉保養施設としてのバースの繁栄の基礎を築きあげていく」(小林草夫『地上楽園バース』)。  
わたしたちの国に、はてさて女神の名が冠せられたような温泉が、どこかにないものだろうか。

### 市と広場

小沢昭一は、先に触れた大道芸でにぎわうロンドンのコバントガーデンも、もとは市場だったところを市当局が繁華街として再開発し、盛り場になったのだと書いている。

『万葉集』の「紫は吹きすものぞ海石榴市(つは)い(ち)の八十の衢(やそ)のちまたに逢(あ)はれませ。誰(たれ) (巻十二)の歌を引いて、丘陵などから来た道の交叉(ま)す(ま)のころに「市」ができた。また、ここでは人ひとが行きあつて、山と里の物が交換され、歌垣が行われたと述べていることは、実に示唆に富む(二万葉集)『折口信夫全集第七巻』。そんな場所がわが大和では、「海石榴市」(桜井市)だったのである。

▼通歴の、辻の音楽師  
歴史学者の阿部謹也は、ドイツの中世の都市や農村の祭りに、ドム(からともなく現れた「通歴楽師」)について触れている。「人々とともに唄(うた)い、ひとときの慰めを与えて、ここへともなく去つていつた通歴楽師。彼らは一体どのような存在なのか。……彼らの演奏した曲目に楽譜は残されていない。常に聴衆のなかで、聴衆との直接的な触れ合いのなかで彼らの音楽が生み出されていったのである」(『ハーメルンの笛吹き男』―伝説とその世界―)。  
また、森有正がパリの町の、とある

広場での様子をこんなふうに描いている。「……テラスに坐(ま)つて、私はビールを飲んでた。……突然私の前に誰かがやってくる、しばらくして何かがやっていたが、やがてケースからヴァイオリンを取り出して奏(う)き出した」。男は、バッハの「G線上のアリア」に続けて、ドルドラの「ユーモレスク」を弾き終わると、風の中を悠然と立ち去つていった(つづ)「辻音楽師」遠ざかる「ノートル・ダム」)。  
自らもまたバッハのオルガン弾きであつたこの哲学者をして、「明けつたなしの広場の、人や車の行き交(あ)つ(た)ただなか)で、あれだけの感動を喚(よ)び起(た)せられたかは、実際優れた楽手」であつたと言わしめるほどに。それはまた、先の阿部が言うあの「通歴楽師」と、どこか似てはいませんか。

### ギコギコ、ほろほろ

ローマン・バースの名で呼ばれるかつての温泉施設と、バース・アベイ教会に囲われた広場が、バースの街のちょうど真ん中あたりにある。筆者が、一人の「辻音楽師」に出会つたのはもう十年ほど前のことだ。

バイオリンを弾く鳥打帽の彼の足元に、なんだか奇妙な器械が据えられていて、それが時々ギコギコ、ほろほろと鳴る。道行く人のほとんどは、気にもとめずに通(と)り過ぎていくのだが、時に蓋(ふた)の開いたバイオリンケースの中へ「チャリン」と硬貨を落として行く人もある。

中世そのままの面影を今も残すバースの街の、そんな一角から今日の日が暮れてゆへ。

(じ)むら(び)る(み)詩人・奈良民俗文化研究所研究員

次回は5月1日付